



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 242

2016/12/01

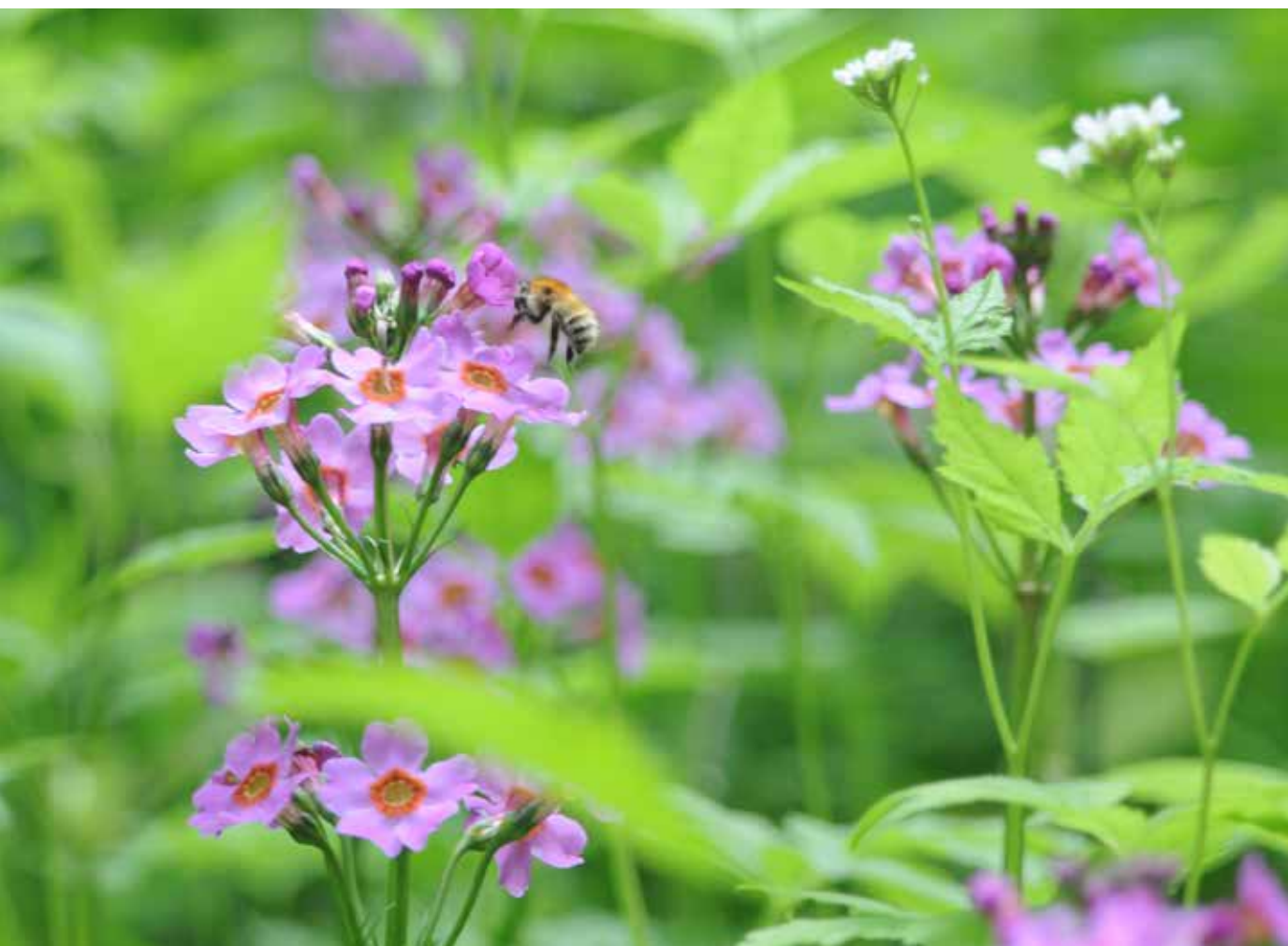
今月の一枚

今月のイベント

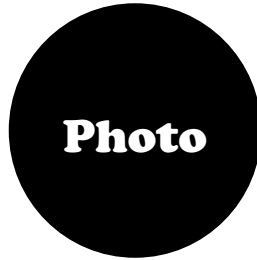
参加者募集

GREEN COLUMN

01. 展示室の森で生きもの探し
02. 名前を決めるのが難しいトンボ



今月の一枚



「クリンソウとエゾトラマルハナバチ」

表紙写真・文／城坂結実

6月初旬。古梅地区の川沿いでは、クリンソウの花が見頃となります。鮮やかなピンク色の花に心を奪われて、しばらく森の中に佇^{たたず}んでいると、ブーンという羽音とともにエゾトラマルハナバチが姿を現しました。

クリンソウにとって、エゾトラマルハナバチは大切なパートナー。エゾトラマルハナバチは、せっせと蜜を吸いながら、クリンソウの花粉を運んでいるのです。

Event. 今月のイベント

企画展「美術コレクション展 旅する絵画」 12月10日(土)～1月22日(日)

プチ工房「サンタとトナカイのキャンドル」 12月8日(木), 15日(木)

Information. 参加者募集

プチ工房 「サンタとトナカイのキャンドル」

● 12/8(木), 15(木) 10:00 - 12:00, 14:00 - 16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(300円) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

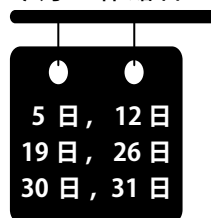
モノ作り講座 「鳥型たこづくり」

● 1/11(水) 10:00 - 11:30 ●美幌博物館 1F 講座室, 博物館前庭 ●材料費(200円), 野外で活動できるあたたかい服装, 足下は長ぐつ・スパッツ等でお越しください。(雪の上でたこを飛ばします) ●城坂結実(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(12/1 - 1/8)。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員10名で締切。

ご自宅に古い写真ありませんか？

美幌博物館では展示会で使用するため、明治～昭和に美幌町内の様子を写したなつかしい写真や映像を探しています。寄贈もしくは複写させていただける方は、美幌博物館までお電話ください。寄贈・複写させていただいた方には、無料入館できる「招待券」を1枚差し上げます。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

展示室の森で 生きもの探し

写真／町田善康・文／城坂結実



美幌博物館の第1展示室には、動物・昆虫・植物などの生きものを集めた、大きなジオラマがあります。美幌町の春から初夏の森の様子を再現したもので、オホーツク地方の代表的な動物であるヒグマやエゾシカがいるのはもちろんのこと、エンコウソウやオオウバユリといった植物も花を咲かせています。また、地上の様子だけでなく、地中の生きものや、木の上でさえずる小鳥の姿も間近に見ることができます。

このジオラマは、昭和62（1987）年の開館当初より、美幌博物館の目玉的存在です。開館以来29年間、ずっと変わらずあるようにも見えますが、実は毎年、細かいメンテナンスがされているのをご存じでしょうか。年1回、専門業者の手により、清掃はもちろんのこと、花の色を直したり、葉にギザギザを加えたり、動物を見やすい位置

に動かしたり…と、この森の魅力が増すように、様々な工夫がされているのです。

さて、今年は、そのジオラマに新しい生きものが3種類加わりました。トンボの仲間のニホンカワトンボと、マルハナバチの仲間のエゾトラマルハナバチ、そして植物のコウライテンナンショウ。それぞれ、細部までとても細やかに作られていて、昆虫の脚の毛や、コウライテンナンショウの縞模様までしっかり再現されています。

雪に閉ざされたこの季節、美幌博物館の森で、生きもの探しを楽しんでみてはいかがでしょうか。昆虫はとても小さいので、見つけるのが難しいかもしれませんが、じっくり探してみてください。（エゾトラマルハナバチがいる場所は、表紙の写真がヒントです！）

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

名前を決めるのが 難しいトンボ

写真・文／鬼丸和幸



美幌町内には、川・湿地・人工のため池やダム・農業用水路など、今でも豊かな水辺環境が点在しています。そのため、比較的多くの種類の、水辺を好む昆虫の姿を見ることができます。

トンボは、水辺をすみかにしている代表的な昆虫ですが、これまでに美幌町内で、約 40 種類ほどのトンボの仲間が見つかっています。森林の中で暮らしているトンボなどは、調査が難しいこともあり、まだまだ詳しく調べ切れていません。

体が小さなトンボの仲間に、アオイトトンボがいます。体の色が光沢のある緑銅色で、とてもきれいなトンボです。美幌町内では、池や沼などで、ごく普通に見られます。このアオイトトンボの仲間で、エゾアオイトトンボという種類のトンボがいます。エゾアオイトトンボは、アオイトトンボと似た

ような環境にすんでいます。残念ながら、美幌町内では、これまでまだ確認されていません。

実は、エゾアオイトトンボとアオイトトンボは、体の色や形がそっくりで、見分けるのは非常に難しい種類です。“交尾器”と呼ばれるお尻の先端の形態の違いが、2 種を見分けるポイントとなります。先日、「これエゾアオイトトンボでは？」と調査補助員の A さんが、採集されたトンボ（メス）を見せてくれました。「産卵管の長さが、腹端を超えるか超えないか」が、見分けのポイントになりますが…この見分けが、とても微妙です。見る角度などにより変わってくるので、かなり頭を悩まされます。

少し時間をかけて、調べてみたいと思っています。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

【お知らせ】

グリーンレター 1 月号はお休みさせていただきます。
来年も引き続き、グリーンレターをよろしくお願いいたします。

学芸員のつぶやき



「指輪をされていませんが、独身ですか？」…お客さんに聞かれました。もちろん既婚者です。仕事で野外調査をしていて紛失すると困るので、結婚式以来、指輪をしていません。久しぶりに自宅の机の引き出しを開けて、17年ぶりに指輪と対面してみました。(鬼丸)